

Abstract

AROMA RESEARCH No.53 (vol.14/No.1)

医療現場におけるニオイと対策

楠原 正俊、浦上 研一、益田 葉子、飯沼 むつみ、青木 和恵、白井 文晴

〈要旨〉

静岡がんセンターでは、患者の視点を重視することを基本理念とし、ロボット手術などの最先端の医療を進めるとともに、快適な療養環境の整備に力を入れてきた。進行がんの患者は時に強いニオイを呈することがあり、我々はこれを病臭と呼んでいる。病臭は患者や家族にとって精神的なストレスとなるため、我々は病臭対策に積極的に取り組んでいる。高砂香料工業（株）と協働で、病臭の成分同定、対策法の開発、消臭のための製品作りを行ってきた。

消臭し、そしてよい香りを提供することは、患者に癒しをもたらす。ニオイ対策はそれ以上の効果をもたらすのではないかと考え、その可能性についての研究を行った。森林の香りの主成分である α -ピネンを嗅がせたマウスでは、移植した腫瘍の増殖が約40%抑制されることを確認した。この効果は、神経一内分泌系および免疫系を介して作用していると考えられた。

病臭対策や快適な香り環境の提供は、患者の癒しだけでなく、がんの治療にも影響する可能性が示唆された。今後、医療現場における香りの環境整備やその効果の立証が重要と思われる。

〈キーワード〉

病臭、がん、香り、森林浴、 α -ピネン、レプチノン、療養環境